

天の国籍と地上の墓

創世記二三章

私はあなたがたのもとでは寄留者であり、滞在者です。あなたがたが所有している墓地を譲っていただきたいのです。そうすればこのなきがらを移して葬ることができます。(4)

妻サラを葬るために、アブラハムは多額なお金を払って墓地を買い求めました。これまでアブラハムは自分の土地を一切所有していませんでした。この世にあつては寄留者であることを自覚していたからです。地上のことに執着しないアブラハムが、天の御国を目指して地上の旅を続けながらも、妻を葬るために莫大な財産を払って地上に墓を設けたのです。そしてこの後、アブラハム(二五九)、イサク(三五二九)、リベカとレア(四九三)、そしてヤコブ(五〇一三)たちもこの墓に葬られました。まさに「アブラハム家の墓」となったのです。信仰の父アブラハムが、お墓のことなどどうでもいいとは思えなかったのです。お墓を大切にする日本人の中に生きるキリスト者として、大きなヒントになるのではないでしうか。天の御国を目指しながら、地上の生活をも大切にしたいものです。